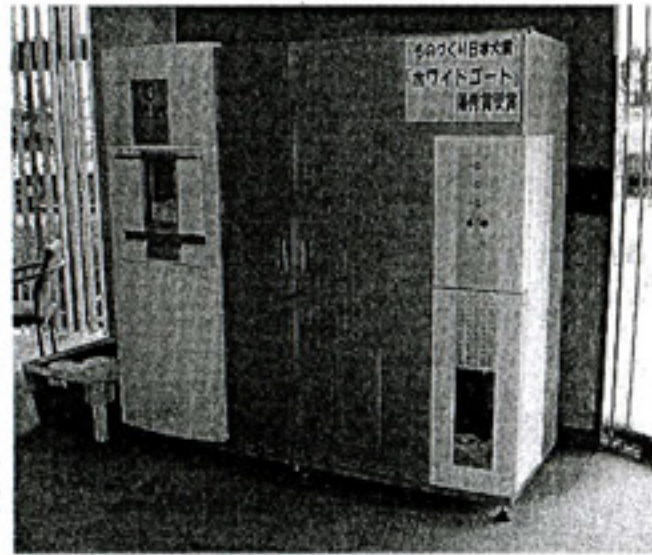


トイレ紙、細断くず活用

シュレッダー製造のオリエンタル(群馬県桐生市、能沢孝博代表社員)はこのほど、シュレッダーで細断した紙のくずからトイレレットペーパーを製造する装置を開発し、販売を始めた。群馬大学との共同開発で、製造工程で化学薬品を使わないのが特徴だ。環境意識の高まりを背景に、官公庁や企業への販売を目指す。新たな収益源に育てる。

シュレッダー製造のオリエンタル



オリエンタルのホワイトコート。横幅は183センチ

群大と共同開発 化学薬品使わず

名称は「ホワイトコート」。奥行き81センチ、横幅183センチ、高さ180センチで、装置の左側からシュレッダーで細断した紙を投入すると、まず水と混ぜて溶解する。それを一定の厚さですいて紙状にし、乾燥した後、右側からロール状になったトイレレットペーパーが出てくる仕組み。

A4用紙約40枚分の細断くずから、約30分で長さ70〜80センチのトイレレットペーパーが1本できる。導入する官公庁や企業は環境保護の姿勢をアピールできるほか、単に細断するより確実に書類上の情報を守るメリットもあるという。

乾燥工程には空気中の熱を移動させることで高温を作り出す「ヒートポンプ」と呼ばれる技術を用いる。紙表面の菌は乾燥時に9割以上が不活性化するため、薬品を使わなくても衛生面で問題はないという。電源は100ボルトの家庭用を使う。開発で連携した群馬大

地域食品協議会を設立

まず環境対策などから

群馬県東部の館林市や「サントリー酒類、正田醬」は環境対策などから手掛

えだ。同地域には多くの食品関連企業があるが、協議会では、上場している、あるいは売上高200億円以上を目安に会員を選んだ。館林市内には今年

工学部の久米原宏之教授は、主に紙を溶かす工程の温度や時間などについてアドバイスしたほか、トイレレットペーパーの強度試験などを担当した。また、同社は大手製紙会社OBを2年間雇用して、製紙技術について全般的な指導を受けた。関係会社オリエンタルホープ(同)が販売を担当する。価格は1台90万円、このほど桐生市役所に第1号機を納入した。今後は官公庁や地方自治体のほか、環境保護に力を入れている企業などに営業を向け、年間60台の販売を目指す。オリエンタルの本業はシュレッダー製造。昨秋以降の景気悪化で企業が設備投資を抑制する中、シュレッダーの販売も落ち込んでいる。新しい装置で売り上げの落ち込みを補う狙い。

景況判断 関東、8月も据え置き 経産局 回復に力強さ欠く

関東経済産業局は13日、8月の管内(静岡及び関東甲信越11都県)経済動向を発表した。軽自動車を含む乗用車の新車販売台数が13カ月ぶりに前年同月を上回るなど一部で消費が上向いたが、雇用情勢は有効求人倍率で過去最低の水準が続く。全体では回復に力強さがないとみて景況判断

は「一部に持ち直しの動きがみられる」と4カ月連続で据え置いた。乗用車の新車販売台数は9万7865台で前年同月比2.0%増えた。「販売額の6割をエコカーが占め、エコカー減税などの効果があった(関東経産局)とみる。消費支出金額は1世帯当たり30万4488円と同6.0%増。省エネ家電の普及を促す「エコポイント制度」の効果で薄型テレビの販売が好調だったという。

大型小売店の既存店販売額は同7.0%減と7カ月連続の前年割れ。7月の8.9%減に比べてマイナス幅は縮小したが、依然として低水準にとどまっており、関東経産局は個人消費の判断を「さらに弱い動きとなっている」から「一部に明るさがみられるものの、弱い動きが続いている」として3年8カ月ぶりに上方修正した。鉱工業生産指数(05年明)

高経大学生有志がイベント

高経経済大学地域政策学部の学生有志が17日と18日の両日、高崎市の慈光通り商店街で店舗を巡るイベントを開催する。イベントをきっかけに多くの人に訪れてもらうことで、商店街の良さを発見して

良さを発見してもらうのが狙いだ。学生が主体で商店街活性化を支援する取り組みは珍しい。

イベントの名称は「ハロ in TAKASAKI」で同大の伊藤亜都子准教授ゼミの有志が開催する。参加者は商店街の地図を受け取り、各店舗に展示

県職員の年間16万円下げ

群馬県人事委員会は13日、期末・勤勉手当(ボーナス)を含めた県職員1万5千名の平均年間給与を2.5%、16万1000円引き下げると発表した。下げるよう知事と県議会議長に勧告した。減少額は過去3番目の大きさとなる。景気低迷により民間企業の従業員の所得環境が悪化しているため、職員給与を民間の水準と均衡させる。

人事委はほかに、住宅手当を4500円から3600円に引き下げること